

学校教育目標	○自ら学び伸びる (知) ⇒ 学び合う過程[「課題をもつ」「筋道を立てて考える」「活用する」「振り返る」]のサイクルを大切にし、一人ひとりの学びを伸ばします。
	○共に生きる (徳・公・開) ⇒ 豊かな人間関係を築くため、互いに認め合い支え合うとともに、地域社会や広い世界と関わりながら、平和や人権を大切にして生きていく力を育てます。
	○健やかな体をつくる (体) ⇒ 自他の生命を尊重し、健やかな体を育てます。

学校概要	創立 77 周年	学校長 遠山 満	副校長 都甲 道貴	3 学期制	一般学級: 13	個別支援学級: 5
	児童生徒数: 499 人	主な関係校: 不動丸小、今宿小、白根小、今宿南小、本宿小、鶴ヶ峯小				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	鶴ヶ峯中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
「自分で判断し、進んで行動する力」 ・課題を認識し、協働的に解決策を見いだし実行することにより、自らの生き方を追求する姿勢 ・ものごとを多面的・総合的に考え、主体的に社会参画し、よりよい社会を創る態度	鶴ヶ峯中学校 不動丸小学校	<自分で判断し、進んで行動する児童・生徒> 小中連携によるつながりのない2つの具体的取組 確かな学び: 対話的、体験的な学びとICT活用の調和による「自ら考える」学びの実現と学力学習状況調査のデータを活かして授業力の向上を目指します 共に生きる力: 小学校からの情報や道徳人権学習の取組を大切に、協働的な活動を通して自他尊重の精神を育み、積極的に集団に関わろうとする姿勢を醸成します

中期取組目標	OICTを活用して生徒個々が課題解決に取り組み、同時に生徒相互に対話を通して深く学ぶことができる授業をデザインし、学びの充実感を引き出す支援を目指します ○受容力のある学級経営の中で、生徒が相互に意見や価値観を尊重し、個々の長所を集団に活かそうとする姿勢を醸成します ○特別支援教育の視点を教職員全員が持ち、教育活動の全てにおいてユニバーサルデザイン化を進め、個に応じた支援体制の充実を図ります ○生徒の意見を尊重し、教職員、保護者、学校運営協議会等で共有を図り、積極的に教育活動に反映させていきます。同時に学級や生徒委員会等の組織の中でそれらのPDCAを行うことで社会参画意識の育てます ○生徒や保護者、地域等の要望と、教職員の「働き方」の改善にむけた取組とのバランスを図りながらPDCAサイクルに基づいた学校運営に取り組みます
--------	---

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	社会に求められる資質・能力の育成・習得のため、教科等の特性を踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点や考える授業を展開します。ICT機器を活用した授業を展開し、授業力向上・学習支援に努め、他の学習や生活の場面でも活用できるような生きて働く知識の習得を目指します。
担当 研究研修部・教養教育部	
徳 豊かな心	道徳では、対話的な学習を通し、道徳的諸価値を多面的多角的に深く捉える時間とします。人権作文に全校で取り組むと共に「平和」をテーマに人権講演会を行い、人権意識を高めます。学校行事や学習場面で、誰もが主人公になる場面設定をし、自尊感情や他者に寄り添う心を育成します。
担当 情操教育部	
体 健やかな体	命と心身の健康を最優先に捉え、目まぐるしく変化する生活環境に対応できる力を身につけることを目標にします。一人ひとりのQOLが向上するよう、今何が必要かを考え自分ごととして取組む意欲を育てます。思春期特有の健康課題について生徒・保護者と寄り添い解決できるよう努めます
担当 健康教育部	
公開 地域学校協働活動	学校と地域の連携、充実を図り、多くの生徒が地域で活躍できる場面を多く設けていきます。また、地域と学校で協働的な学びを働きかけ、生徒自身が主体的、自主的に学べる姿勢を育てます。学校運営協議会や学地連携事業を通じ、生徒の健全育成に努めます。
担当 学地・学校運営協議会	
いじめ根絶にむけて	いじめの未然防止の観点を強化し、スクールカウンセラーの相談活動、教育相談、見守り活動を適宜実施していきます。いじめ事案発生時は、学校いじめ防止対策委員会に加え、臨時会議で生徒の情報交換や指導方針を共有し、いじめに対して組織的に取り組みます。
担当 いじめ防止対策委員会	
特別支援教育の充実	不登校傾向や学習の遅れがある生徒のために、校内において「安心して過ごせる居場所」「個に応じた学び」を提供する校内ハートフルを支援員と共に実施します。そのために職員体制を整え、段階的な目標設定を中心に、生徒一人ひとりの実態に応じた指導計画・支援計画を策定します。
担当 特別支援委員会	
教育相談・生徒指導	温もりある指導を目指し教員の共有認識を高める研修やSNSや発達障害・不登校などの研修を積み重ねます。長期休業明けの教育相談と共に、日常から生徒との関係作りを進めることで生徒が抱える諸問題の予防・早期発見に努めます。YPプログラム等を使い積極的生徒指導に取り組みます。
担当 健康教育部	
小中連携事業	小中一貫ブロックにおいて目指す資質能力の育成に向けた共通の課題をとらえると共に、教育課程等の円滑な接続を図ります。小中担当者会や教科別研修会を通じた情報交換の機会を作ると共に、ICT機器の活用や情報モラル教育の推進を含めた学びの場のさらなる連携を図ります。
担当 総務部・教育課程委員会	
防災・安全教育	3年間の継続的な学びを通して、命を守る力を習得します。引き取り訓練や地域防災訓練に参加し、学校・家庭・地域を繋ぐ防災教育を目指します。熱中症対策やけがの予防、不審者対応など職員の危機管理意識を高め、安心・安全・信頼される学校づくりに努めます。
担当 健康教育部	
人材育成・組織改編・働き方の見直し	メンターチーム研修を定期的を設定すると共に、各職員が各々のステージにおける人材育成を意識し資質・能力のレベルアップを図る機会をつくります。職員減に伴う組織の見直しや担当業務の均等化など持続可能な学校運営組織を目指し、組織検討委員会で検討していきます。
担当 研究研修部・組織検討委員会	